
ポスター | 1-10 心筋心膜疾患

ポスター

心筋症②

座長:安田 東始哲 (やすだクリニック)

Fri. Jul 17, 2015 2:20 PM - 2:50 PM ポスター会場 (1F オリオン A+B)

II-P-079~II-P-083

所属正式名称: 安田東始哲(やすだクリニック 小児科・内科)

[II-P-080]小児拡張型心筋症の予後予測に発症時腎機能は有用か?

○山田 俊介, 小山田 遵, 島田 俊亮, 岡崎 三枝子, 豊野 学朋 (秋田大学大学院医学系研究科機能展開医学系 小児科学)

Keywords: 拡張型心筋症, 腎機能, 予後予測

【背景】拡張型心筋症 (DCM) で発症時の臨床的項目が予後予測に有用とされるが, 人種や年齢による相違も報告されている。【目的】非二次性小児 DCM例において, 発症時の臨床的項目と予後との関連を検討すること。【方法】2003-2014年に当院で新規診断された1か月以上18歳未満の DCM例を解析した。解析項目として, いずれも発症時の年齢, 体表面積, 心胸郭比, QRS時間, 血漿 B型ナトリウム利尿ペプチド (BNP), 高感度 C反応性蛋白, 赤血球容積粒度分布幅 (RDW), 推算糸球体濾過量 (eGFR), 左室拡張末期径係数, 短縮率, 相対的左室壁厚, 左室心筋重量係数を検討した。予後に関するエンドポイントは死亡及び心移植 (植込型補助人工心臓装着を含む) とした。【結果】6例が対象となった。女児83%で家族性は50%であった。発症時の各項目値は年齢 9 ± 5 歳, 体表面積 $1.03 \pm 0.42 \text{ m}^2$, 心胸郭比 $64 \pm 9\%$, QRS時間 0.092 ± 0.016 秒, BNP $1,794 \pm 1,266 \text{ pg/ml}$, 高感度 C反応性蛋白 $0.23 \pm 0.2 \text{ mg/dl}$, RDW $13.7 \pm 0.47 \text{ fL}$, eGFR $105 \pm 17 \text{ mL/分/1.73m}^2$, 左室拡張末期径係数 $42 \pm 19 \text{ mm/m}^2$, 短縮率中央値7% (2-29%), 相対的左室壁厚 0.19 ± 0.08 , 左室心筋重量係数 $197 \pm 128 \text{ g/m}^2$ であった。4 ± 3年の観察期間で4例がエンドポイントに達した (死亡2例, 心移植1例, 補助人工心臓装着1例)。全項目中, 発症時 eGFRのみが生存群でエンドポイント到達群より低値であった (85 ± 6 vs. $116 \pm 12 \text{ mL/分/1.73m}^2$, $p = 0.02$)。【結論】小児 DCM例の検討で生存群は発症時の腎機能が死亡・心移植群より相対的に低値であった。DCMの予後予測指標は患者背景によって異なる可能性が示唆された。